

総合心療センター メンタルリハビリテーション部

部長 山内 学

本年度の総合心療センターにおけるメンタルリハビリテーション部門は、各部門ともにスタッフの大きな変動はなく、現体制を維持した運営となっています。スタッフの多くは経験を積んだベテラン層で構成されており、安定した運営と一定水準以上の治療と支援の提供が可能となっています。一方で、体制の固定化により新たな取り組みや拡張に結びつきにくい側面も課題として認識されていること事実です。

デイケア部門では、参加者数の減少が顕著であり、これは当センターに限らず各施設に共通する大きな課題となっています。復職のデイケアにおいても利用ニーズの変化や社会的背景の影響も踏まえつつ、従来の枠組みにとらわれない視点や運営を考えています。メンタルデイケアにおいてはマンパワーや運営条件の制約により、本来提供すべき治療的プログラムや心理的プログラムの十分な実施に至っていない現状もあります。

作業療法部門では、感染対策の影響によりプログラム運営に一定の制限が継続しています。その中で質の維持に努めているものの、活動の幅が制約されることにより、本来期待される治療的介入の十分な展開が難しい状況が続いています。

心理部門では、心理面接(カウンセリング)や心理検査を通じて診療支援に寄与していますが、依頼件数の増加に対して十分に対応しきれていない現状もあります。加えて、これらの業務が診療報酬に反映されにくい点も継続的な課題です。法人内でのストレスチェックやリエゾンチームでの役割は定着しています。限られた資源の中で優先順位を整理しながら対応していますが、体制強化の必要性が高まっています。

このように各部門において課題は明確であるが、経験豊富なスタッフによる柔軟な対応力は当部門の強みでもある。今後は、現状の課題を踏まえつつ、プログラム内容の再構築や運営方法の見直しを進め、精神科急性期医療の回復促進に加え、在宅支援・就労支援へとつながる実効性の高い支援体制の構築を目指していく。